

活動内容

福島県内でニホンヤマネの調査を行うことで
森林と野生動物のつながりを学習することで森林と
生物多様性の重要性を若手の力で県内外に広めていく！！



県民の森での調査の様子



県内の林業の廃材も活用



小鳥の森にてワークショップの開催



ライトセンサー調査



大玉村での調査



筑波大演習林で調査法を学習

京都大学にて活動発表

ニホンヤマネの生態や調査について哺乳類研究
交流会にて発表しました！大変好評でたくさん
の意見交流もすることができました！



日本固有の天然記念物であるニホンヤマネの生態などについて知るため、山梨県で、ヤマネミュージアムを訪問し、アニマルパスウェイを見学しました！

ニホンヤマネの生態
哺乳綱齧歯目リス亜目ヤマネ科
日本列島のうち本州、四国、九州、隠岐諸島の島後に棲息する。夜行性で気温が下がると体温を1度近くまで下げ半年近く冬眠する。雑食性で昆虫(アブラムシ、ガなど)を中心に、花の蜜、果物(サルナシ、ヤマブドウ)を食べる。

～巣箱調査～
調査地：八ヶ岳演習林(山梨県との県境付近)
筑波大学農林技術センターの八ヶ岳の演習林でヤマネの生態研究をされている杉山昌典さんと巣箱調査を行い、巣箱の仕組みなど様々なことを学びました！

◀杉山さんが開発した塩ビ管と木材を組み合わせた塩ビ木製巣箱は、従来の木製巣箱と比べて軽くてコンパクトにできることから持ち運びや設置、回収が容易なため広い範囲の生態調査ができるようになったこと、耐久性もありコスト面でも節約ができます。

実際にヤマネがいた巣箱のある木
推定：約6m 人：身長180cm代

その他巣箱で見えたもの
ヒメネズミ、カマドクマシジユウカラの卵、ツチバネ等

なんと本物のヤマネを見る事が出来ました！

森と命をつなぐ野生動物の歩道橋
～アニマルパスウェイ～
「アニマルパスウェイ」とは道路建設等で分断された森林をつなぐ樹上性動物のための通り道です。樹木の枝の重なりを移動する樹上性動物がロードキルの被害にあわず安全に移動できるようにするために研究や普及活動が進められています。

山尾涼葉、柚葉
福島大学 食農学類 1年